

2010 北海道カンファレンス

HFAテクニカルレポート



2011年1月29～30日

【報告者】中嶋徹雄 大西真司

1. 事業の概要

2010 北海道カンファレンスは、2011年1月29日～30日に、ロワジュールホテル旭川で開催されました。1日目は布啓一郎JFAユースダイレクターの講演と山橋貴史ナショナルトレセンコーチ山崎茂雄ナショナルトレセンコーチ、中嶋徹雄HFA技術委員長と上田充士HFAユースダイレクターがパネリストとしてパネルディスカッションが行われ、夜は懇親会を開催しました。

2日目は各種別に分かれての分科会をおこない、全体会で分科会からの報告がありました。「北海道から日本代表を輩出するには」、「北海道サッカーが強くなるには」等、参加者の方々からも多くの意見を出してもらいながら、指導者としての方向性を共有できるように、ベクトル合わせを行いました。

2007年度から北海道カンファレンスがスタートし、1回目は岡田武史さん（元日本代表監督）と小野剛さん（元JFA技術委員長）、2回目は小野剛さん（元JFA技術委員長）、3回目は池内豊さん（元U-17日本代表監督）にそれぞれ講演をしていただきました。いずれも、札幌市での開催でしたが、今回は旭川地区サッカー協会の協力により道北ブロックを中心とする多くの指導者の方々に参加していただき、事業展開の面でも新たな試みとなりました。



2. 講演（布啓一郎JFAユースダイレクター）

約2時間の講演を、前半は「AFC U-19選手権中国2010」の報告と題して、細かな分析結果や日本の成果や課題を中心にそれらを克服していくに

は育成年代との関わりをどう捉えるかなどを交えて話をしていただきました。後半はJFAの「ユース育成」に関わるお話でしたが、発信されている情報の幹となる部分をわかりやすく丁寧に説明していただきました。前半の報告も後半の説明も、ともにパワーポイントによるスライドや映像を交え、とてもイメージしやすいものでした。また、布氏の人柄が表れている「熱き心」の部分も会場のみなさんすべてに伝わったように思えました。講演の中で誰もが印象に残った言葉は、「4種年代の指導者から1個1個積み上げたレンガのピースが、やがて代表選手として活躍する姿を完成させる」・「その国の代表チームのサッカーは育成年代が作っている」という、ユース育成の真の目的・意味だったのではないかと思います。



3. パネルディスカッション

続いて行われたパネルディスカッションは、北海道カンファレンスとしては初の試みでした。前述したように5名のパネラーを壇上に迎え、「世界のサッカー」「日本のサッカー」「北海道のサッカー」「日常の指導現場」という観点を順に追っての話をしていただきました。パネラーの方々の経験談や情報などに加え、受講者の方々からの質問や意見交換などを交え、今までのカンファレンスには無かった参加型のものとなったのは、ひとつの方向性としても評価できたのではと思います。ただし、アセスメントにもいくつか意見が出されていましたが、テーマの設定や進行の部分でもまだまだ修正していかなければならない点もありました。

4. 懇親会

布さんをはじめとするJFAナショナルトレセンコーチが6名、中嶋技術委員長以下のHFAスタッフが10名、旭川地区協会の会長と副会長に加え受講者の方々に総勢76名の参加となりました。昨年の反省を踏まえテーブル席を用意し食事やお酒を交え楽しいひと時となりました。後半には各テーブルからの代表者にスピーチをしていただきましたが、昼間とは違い楽しい雰囲気があふれる内容もたくさん出され、会場内も笑い声に包まれた一コマもありました。さらに、市立船橋高校監督時代の秘話も引き出される質問攻めにあう布さんの姿もありましたが、ひとつひとつ丁寧に答えていただく様子に、人柄を感じる場面もありました。楽しいひと時もあつという間に過ぎたように感じたのは、盛り上がりのあつた懇親会だったのを物語っていたように思います。

5. 分科会

「2種」「3種」「4種・キッズ・女子」の3つの会場に分かれ、NTCとHFAスタッフによる進行で分科会のディスカッションに朝から取り組みました。事前の打ち合わせがなかなか取れない中ではありましたが、それぞれの司会進行役の努力と工夫のため多くの意見が出されたり、グループ討議がなされたりとあつという間の2時間だったと思います。さらに、各種別に合わせたテーマの設定により、日常の指導現場に結び付けられる重要な内容であったり、今後の育成の方向性に関わるものであつたように思います。そして、参加している分科会会場を自由に移動できるという条件で行いましたので、何人かの方は日常の指導種別とは違う会場に参加し意見を求められる場面もありました。

6. 全体会

分科会終了後わずかしかなかった時間がない中での全体会でしたが、スタッフの方々の努力で分科会の中で同時進行でまとめていただいた報告を、それぞれ発表していただきました。4種・キッズ・女子の分科会では「教えることと感じさせること」を中心に実際の指導実践に関わることの悩みや苦労を共有していました。3種の分科会では、「個

の育成」に関わる工夫の部分をブロックや地区単位のディスカッションを交えながら取り組んでいました。2種の分科会では「強化」のための取り組みとしてゲーム環境や大会の在り方の見直しなどを中心に様々な意見が交わされました。また、それぞれの分科会の報告後に受講者の方々からの質問等をもとにディカッションの場を設けましたが、種別を越えた指導者間の縦の連携を進める上で、きっかけとなる場面も全体会で見られたようで、大きな成果だったと思います。

7. まとめ

北海道カンファレンスは今回で4回目になりますが、札幌市以外での開催は始めてであり、広域な北海道ではこのように地区開催を行うことは、多くの刺激と情報を北海道すみずみの指導者の方々へ発信できるのかもしれないと感じました。旭川地区協会の皆様には大変お世話になり、日本協会の布さんにも大変お世話になりました。布さんには精力的に2日間のカンファレンスに参加していただき、わかりやすく丁寧にそして指導者の立場に立って、いろいろな質問に対してお答えいただき、指導者としての情熱をあらためて参加者に伝えてくださいました。スタッフ関係者と受講者を合わせて総勢150名を越えた方々が2日間にわたり「サッカー」を話題にして過ごせたということは大変意味のあることだと思います。まだまだ質の部分を考えると修正しなければならないことが多いと思いますが、こうした経験をしていくことも「1個1個のレンガを積み上げること」だと思います。ぜひ北海道の指導者がひとりでも多く縦にも横にもつながっていき、「北海道からの日本代表の輩出」や「北海道のチームが全国の上位で活躍」という日が近い将来に訪れることを願っています。

